

# 横浜市における自殺の現状(平成22年)

## －神奈川県警提供のデータの解析－

日本の自殺者数は、平成10年に一挙に8,000人余り増加して3万人を越え、その後も高い水準が続いています。平成18年10月、国を挙げて自殺対策を総合的に推進することにより、自殺の防止を図り、あわせて自殺者の親族等に対する支援の充実を図るため、「自殺対策基本法」が施行されました。また、この法に基づき、平成19年6月には、政府が推進すべき自殺対策の指針として「自殺総合対策大綱」が策定されました。

横浜市でも自殺対策に係る庁内の密接な連携と協力により、自殺対策の推進を図るため、平成19年9月から横浜市庁内自殺対策連絡会議が設置されています。

感染症・疫学情報課では、横浜市こころの健康相談センターを通じて神奈川県警より「平成22年中の横浜市における自殺者」のデータの提供を受け、解析しましたので、その概略を報告します。

詳細は、<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/> に掲載しています。

### 1 総自殺者数および性別自殺者数

平成22年の横浜市における総自殺者数は、746人(男性:529人、女性:217人)で、男性が70.9%を占めました。平成21年の総自殺者数(663人)と比べ、12.5%増でした。

### 2 年齢階級別自殺者数

年齢階級別に自殺者数をみると、男性で最も多いのは40歳代で117人(22.1%)、女性では60歳代で44人(20.3%)でした(図1)。

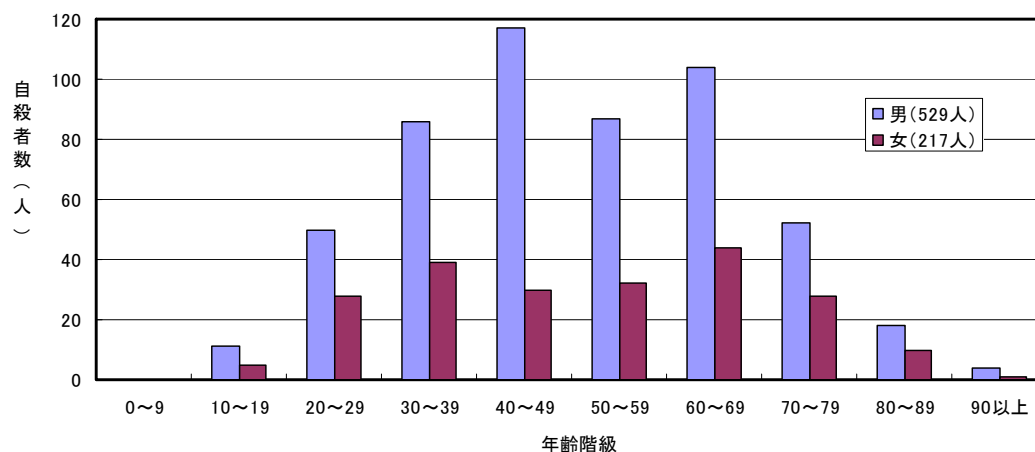


図1 性・年齢階級別自殺者数

### 3 月別自殺者数

月別に自殺者数をみると、7月と10月が73人(9.8%)で最も多く、次いで11月が68人(9.1%)でした。性別にみると、男性では7月が55人(10.4%)で最も多く、女性では10月が26人(12.0%)でした(図2)。

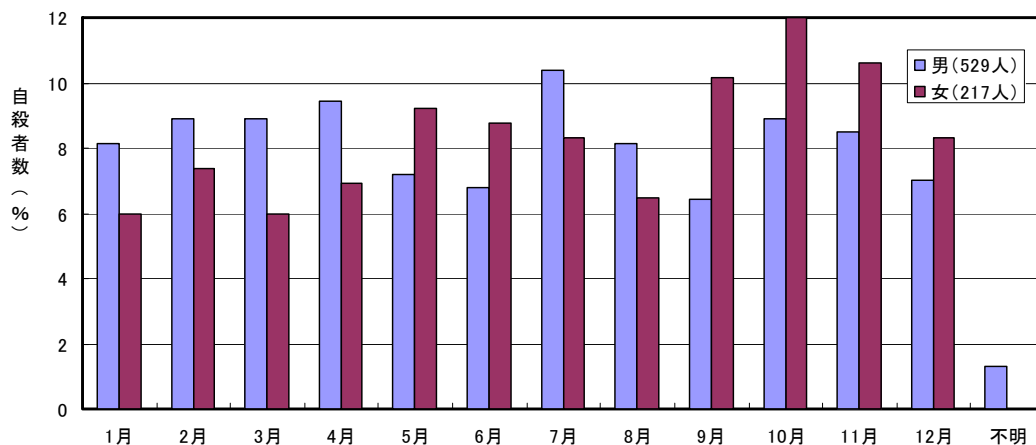


図2 月別自殺者数

#### 4 曜日別自殺者数

曜日別に自殺者数をみると、木曜日が112人(15.0%)で最も多く、次いで月曜日が103人(13.8%)、金曜日が101人(13.5%)でした。性別にみると、男性では月曜日が82人(15.5%)で最も多く、女性では日曜日と金曜日が38人(17.5%)でした(図3)。

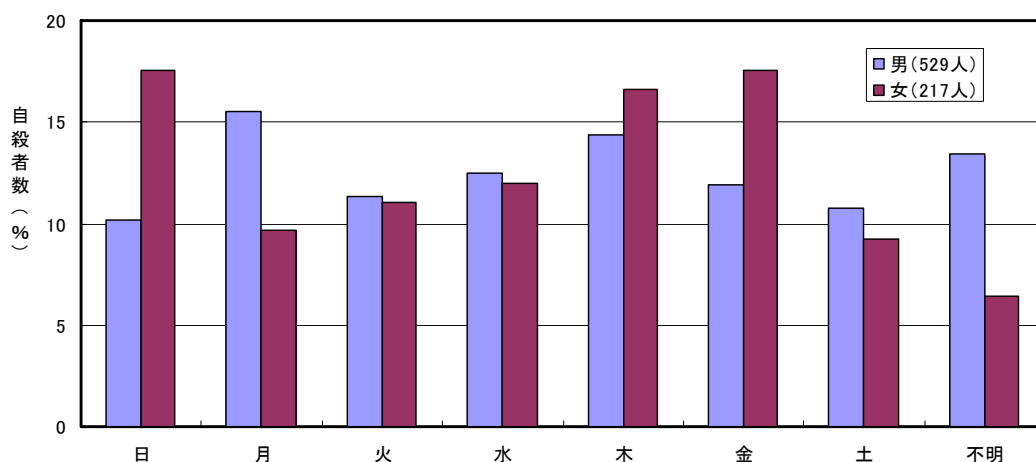


図3 曜日別自殺者数

#### 5 時間別自殺者数

自殺の時間が判明した者439人(男性310人、女性129人)について、時間別に自殺者数をみると、14時台が34人(7.7%)で最も多く、次いで0時、9時、12時台が26人(5.9%)でした。性別にみると、男性では14時台が25人(8.1%)で最も多く、女性では12時台が11人(8.5%)でした。

#### 6 自殺の場所

自殺の場所別に自殺者数をみると、男女共に「自宅」が最も多く、男性326人(61.6%)、女性167人(77.0%)でした。次いで多いのは、男性では「公園」33人(6.2%)で、女性は「高層ビル」14人(6.5%)でした。

横浜市で発見された自殺者746人(男性529人、女性217人)のうち、居住地が市内の者は718人(男性509人、女性209人)で、全体の96.2%を占めていました。

一方、自殺者の居住区と発見された区に違いがあるかをみると、居住区と同じ区で発見された者は654人(男性456人、女性198人)で、全体の87.7%でした。

さらに、自宅以外で自殺した者253人(男性203人、女性50人)についてみると、居住区と同じ区で発見さ

れた者は164人(男性131人、女性33人)で、自宅以外で自殺した者の64.8%を占めていました。

## 7 自殺の手段

自殺の手段別に自殺者数をみると、男女共に「首つり」が最も多く、男性304人(64.0%)、女性107人(56.9%)でした。次いで多いのは、男性では「練炭等」で51人(10.7%)、女性では「飛降り」で33人(17.6%)でした。

## 8 自殺の場所と手段の関係

自殺の場所ごとに自殺の手段の内訳をみると、男女共に「自宅での首つり」が最も多く、男性266人(50.3%)、女性126人(58.1%)でした。次いで多いのは、男性では「公園での首つり」29人(5.5%)、「高層ビルからの飛降り」と「その他での首つり」21人(4.0%)で、女性では「自宅からの飛降り」16人(7.4%)、「高層ビルからの飛降り」14人(6.5%)でした(表1)。

表1 自殺の場所と手段の関係(上位10位)

男					女				
順位	場所	手段	人	(%)	順位	場所	手段	人	(%)
1	自宅	首つり	266	50.3	1	自宅	首つり	126	58.1
2	公園	首つり	29	5.5	2	自宅	飛降り	16	7.4
3	高層ビル	飛降り	21	4.0	3	高層ビル	飛降り	14	6.5
3	その他	首つり	21	4.0	4	自宅	その他	8	3.7
5	自宅	練炭等	20	3.8	4	鉄道線路	飛込み	8	3.7
6	自宅	飛降り	14	2.6	6	自宅	服毒	6	2.8
6	鉄道線路	飛込み	14	2.6	7	自宅	練炭等	5	2.3
8	乗物	練炭等	13	2.5	8	海・湖・河川	入水	4	1.8
9	勤め先	首つり	12	2.3	9	自宅	刃物	3	1.4
10	その他	飛降り	10	1.9	9	病院	首つり	3	1.4
					9	駅構内	飛込み	3	1.4
					9	その他	飛降り	3	1.4

## 9 職業カテゴリ

職業別に自殺者数をみると、男女共に「無職者」が最も多く、男性271人(51.2%)、女性171人(78.8%)でした。次いで多いのは「被雇用者・勤め人」で、男性176人(33.3%)、女性28人(12.9%)でした。

ほかにも、原因・動機(判断資料の有無)、自殺未遂歴、及びそれらの項目の組み合わせ等について解析しています。結果については、<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/> をご参照ください。